宗谷流域国有林の主な取組み

宗谷森林管理署は、宗谷地方の国有林約１６万ヘクタール（宗谷地域の約４割）を管理し、地球温暖化防止対策や住民の生活環境を守るための森林整備事業、安全・安心を確保するための治山事業等を実施しています。

礼文島の造林地から利尻富士を望む

気象条件の厳しい礼文島においても、森林の造成や健全な状態に保つための保育を実施しています。

北海道森林管理局
宗谷森林管理署

緑を育て、森林をつくる

国有林は、気象条件の厳しい奥地山地や水源地域に分布し、国土の保全、水源のかん養、保健休養の場の提供等の機能を有しています。

海からの強い風の影響を受ける国有林（笹生地等）でも、に森林を造成しています。

風の強い箇所では、ハードルフェンス等を設置して寒風から植栽した苗木を守ります。

植栽後は、下刈により、苗木を草の繁茂や笹の被りから守っています。

植栽後しばらくすると、植栽木同士が競争を始め、林内の光不足や下草が絶えるなどするので、込み具合に応じて間伐を実施しています。

森林整備等に不可欠な道づくり

森林の適切な整備や保全を行うためには、投資効率や景観などに十分配慮しながら、林道や作業道等の整備が不可欠です。

ハーベスタ（伐採・枝払い・玉切り等）等の高性能林業機械が通行できる作業路を整備しています。

右の作業路は、林地にやさしい整備とするため、地形をなるべく撹乱せず、幅も３メートルと必要最小限にしています。

林内の沢を渡る時には、現地で発生した間伐材等を有効活用した簡易な橋を作り、重機走行による濁り水の発生等を抑えています。

また、壊れにくい道づくりのためにも、路肩にも間伐材を活用しています。

完成した作業路は、自然の地形に沿ったものとなっており、それを活用して人工林の間伐等が行われ、健全な森林に育てられます。

山を治め、生活を守る

近年、局所的な集中豪雨等によって上流部の国有林等に大きな災害が発生し、下流住民の生活や漁業等に影響を与えています。

安全で安心できる暮らしの確保を目的として、治山事業により災害防止や荒廃地の復旧等を行っています。

利尻島は、その美しい姿から「利尻富士」と呼ばれ、固有植物も多い貴重な自然が残されています。

しかし、厳しい気象条件の下で、常に風、雨、雪などの侵食を受けるなど極めて不安定な状態にあり、一旦大雨が降れば、土石流が生じるおそれがあります。

利尻島では、複数の低いダムを組み合わせる低ダム群により効果を発揮させています。

低ダム群は、土砂・岩塊を完全にせき止めるのではなく、面によって水と土砂の運動エネルギーを減殺し、転がり出す巨岩を抑えることができます。

低ダム群によって、従来のV字渓谷は底上げされ、渓床幅の広い比較的安定したものに変ってきています。

この結果、大雨が降ってもその衝撃を分散・和らげ、堆積物の流下や、山裾の浸食等を防ぎ、土石流の発生が減少しています。

（バルーンによる撮影）

国有林野等の活用

稚内空港滑走路延長

稚内空港は、平成２１年１１月に冬期就航率の向上のため滑走路が２００ｍ延長（２０００ｍ→２２００ｍ）されました（写真：白線部）。空港東側の国有林については、現在、延長に必要な用地として貸付（年度内に所管換予定）しています。

旧枝幸事務所庁舎

宗谷森林管理署枝幸事務所の旧庁舎（木造２階建て）及び土地は、平成２１年にＪＡ宗谷南が購入し、事務所として活用しています。

住民参加の森林づくり・森林環境教育

漁民による森林づくり（上下流の連携）

「海」の環境を守り、水産資源を育てていくためには、山や森林の保全がとても重要との理解が深まっています、

森林管理署では、管内の漁業協同組合と「森林（もり）づくりに関する協定」を結び、漁協女性部が中心となり「お魚を殖やす森林づくり」運動を行っています。

小学生を対象にした森林教室

枝幸町の歌登小学校の生徒を対象に森林教室を実施しました。

当日は、森林官が樹木の説明をしたり、子供たちに枝や葉に直接触れて貰っています。

生物多様性の保全

グリーン・サポート・スタッフ活動

利尻・礼文島の貴重な自然を保全するため、グリーン・サポート・スタッフ（森林保護員）を雇用し、登山者等への指導、高山植物の巡視、登山道等の軽微な修理を実施しています。

※　上：看板等設置、中：清掃登山

　　下：歩道（橋）の維持

上サロベツ原野の保全

サロベツ原野の西側にある稚咲内砂丘林は、林内に多くの湖沼群があります。

近年、湖沼水位の低下、立ち枯れ等が問題となっています。

このため、北海道森林管理局では、「上サロベツ地区自然再生調査業務検討委員会」を設置し、原因分析等を行っています。